

ペインレスニードルを使用して

大淵 裕、庄司義英、及川佳代子
福島亜希子、中田 恵、藤田啓顕
公立米内沢総合病院 人工透析センター

<緒 言>

今回我々は、穿刺時の疼痛が少ないと言われている穿刺針を使用し、患者様へのアンケート調査を行ったので、その結果を報告する。

<目 的>

患者様への穿刺による疼痛の軽減と、穿刺ミスによるシャントトラブル防止の為、ハッピーキャスクランプキャスP18G（以下ペインレスニードル）を使用し、痛みの度合などについてアンケート方式にて調査する。

<方 法>

使用開始 平成16年7月1日

対 象 者 疼痛の強い患者様 5名
穿刺困難な患者様 2名
感染症患者様 1名

使 用 針 1. ハッピーキャスクランプキャスP18G（ペインレスニードル）
2. ハッピーキャスクランプキャス18G（以下従来針）
3. ハッピーキャスシリンジ付600P P18G（以下従来針）

方 法 図1の疼痛レベルスコアを用いて、従来針とペインレスニードルについての比較アンケートを行った。ただし、疼痛条件を一定にする為、リドカインテープは使用するものとした。

スコア	痛みの程度の表現
0	ほとんど痛みなし
1	少し痛みあり
2	痛い但我慢できる
3	痛くて耐えられない
4	極度の痛みで死にそう

図1

<結 果>

1. 「ペインレスニードルの穿刺は痛いですか」の問に対しては図2の通りであり、痛みが少ないと答えた方が半数以上となった。

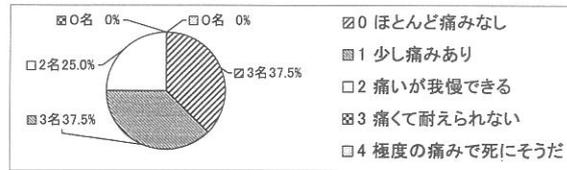


図 2

2. 「従来針と比べて、痛みの程度はどうか」の問に対しては、従来針が図 3、ペインレスニードルが図 4 の示すように、従来針に比べ痛みが少なくなったと答えた患者様が多い結果となった。

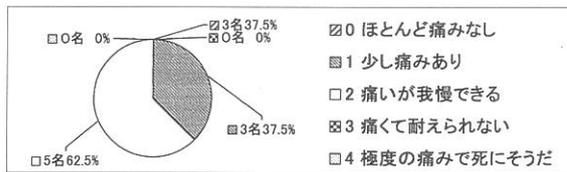


図 3

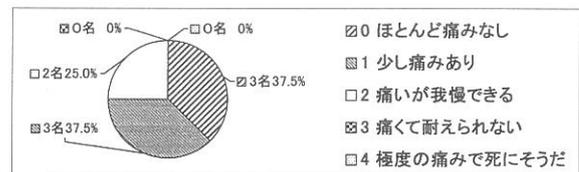


図 4

3. 「痂皮を取る時の痛みはどうか」の問に対しては図 5 の通りで、痂皮を取る時の痛みは気にならない方が多い結果となった。当院では、患者様に自宅にて穿刺部を石鹸にて洗浄してもらい、穿刺時に消毒をした後滅菌綿棒の木製の枝の部分にて痂皮をひっかき取り除く方法を取っている。

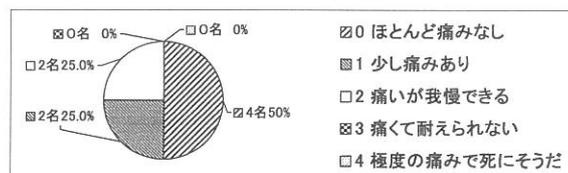


図 5

4. 「ペインレスニードルで、穿刺時の痛みと中で血管に到達するまで探っている時の痛みとでは、どちらが痛いですか」の問に対しては、図 6 の通りである。

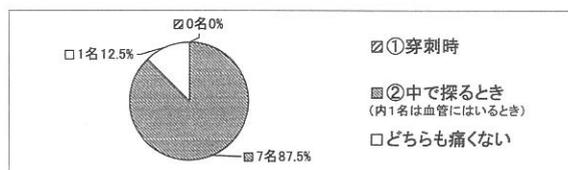


図 6

5. 「どちらの針で、ストレスを大きく感じますか」の問に対しては図 7 の通りで、その理由として、従来針では穿刺時の痛みが強い、一回一回が痛い。ペインレスニードルは、血管へ入るかどうかが不安である、痂皮の除去や穿刺に時間がかかる。又、どちらも同じと言う方は、最初から穿刺に対して抵抗が無いという結果になった。

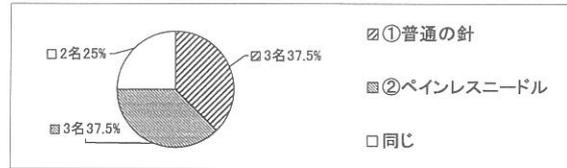


図7

6. 「ペインレスニードルによる、透析中の違和感は従来針と比べてありますか」の問に対しては図8の通りで、血管がピクピクする感じ、静脈圧の上昇などにより、機械の警報が鳴り気になるという意見であった。しかし、半数以上が違和感を感じないと答えた。

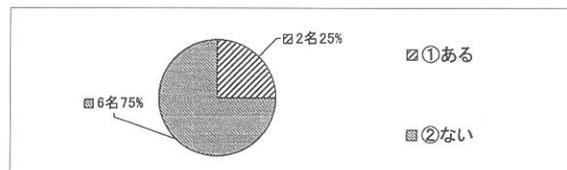


図8

7. 「止血状況は、従来針に比べ短くなったと思いますか」の問に対しては図9の示す通りである。

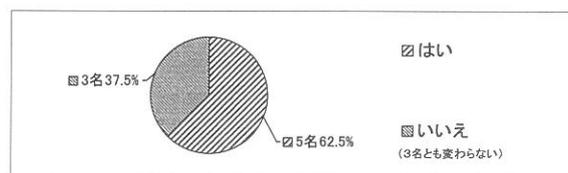


図9

8. 「止血後に再出血した事がありますか」の問に対しては図10の通りである。再出血を認めた患者様3名全てが従来針使用後による再出血であった。

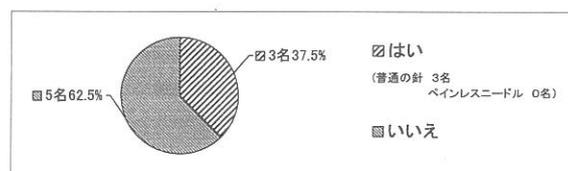


図10

9. 「今後どちらの針を使用してほしいですか」の問に対しては図11の通りである。その理由として、従来針は成功率が高い、一方ペインレスニードルは痛みが少ない、止血時間が短い、止血後の再出血がみられないという意見が聞かれた。又、ペインレスニードルについての感想を聞いたところ、改善すべき意見として、

- ① 針を挿入してから血管を探る時の感触や、痛みが少ない方が良い。
- ② なるべく1回でスムーズに入る針にしてほしい。

③ 痂皮を取る時の痛くない方法があれば良い。

又、肯定的な意見として

① もっと前からあれば良かった。

② 穿刺の痛みが無くてすごく楽になった。

③ この針が出来てすごく良かった。

という感想が聞かれた。

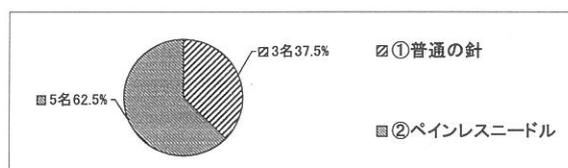


図11

<まとめ>

透析穿刺時における、ペインレスニードル使用の疼痛の軽減は、ほとんどの患者様に見られる結果となった。今回疼痛条件を一定とする為、リドカインテープを継続使用した結果を報告したが、今後はリドカインテープを使用せず施行したいと考えている。しかし、それを使用しない事への患者様の理解を得る事が難しい状況にあるのも現実である。現在も8名中5名は、ペインレスニードルを使用しているが、感染症やシャントトラブルもなく、順調に経過している。他3名は、成功率の問題、穿刺時間がかかるなどの理由により従来針へ変更している。

<考察>

アンケートの成功率から言える事は、挿入角度など技術的な観点から、穿刺孔が出来、安定した穿刺が行なえるまでは同一スタッフによる穿刺が望ましいと考える。今後も継続してアンケートを取り、患者様の意見を聞くと共に、ペインレスニードルの穿刺針としての評価をしながら、長期使用の検討を行なっていく予定である。